

第23期 通常総会

2024年度事業報告

年度初めに次のような重点施策を掲げました。

- ・「手軽に行けるところ、あまねく体験塾を」の実現
- ・体験塾への参加者を増やす諸施策の実施
- ・たんけん工房への支援の輪を広げる活動の実現

2024年度は、みなさまのご理解と実行力により、
活力ある楽しい活動ができたと感謝しています

2025年5月31日

代表理事 柴田憲男

事業報告（１）

☆ おもしろ科学体験塾

- ・年間計画の講座数192⇒197回、児童・生徒参加数は2,880⇒2,841人ほぼ計画を達成。
- ・応募人数は3,679人。1回当たり参加人数は計画の15.0人に対し、実績は14.4人。
- ・全地域に展開を始めた、親子ペアの参加は324組（約11%）でした。

☆ 出前体験塾

- ・他施設等からの要望に応え、昨年より始めた体験塾です。
- ・14回、参加人数：218名と、開催頻度が増えてきました。

☆ 出前塾

- ・24年度は69回、参加人数：980名と、コロナ前を上回る開催依頼がありました。

☆ 学校支援

- ・2024年度は5校の支援を行った。
- ・内容は、科学クラブ支援、特別授業、総合の時間サポートなど多岐にわたった。

事業報告（２）

☆ 特別教室

- ・参加校11校、参加生徒182名、でほぼコロナ前と同レベルで実施出来た。
- ・今年度は第一中学校での集中製作に9校149名、各校への出前は6校95名で総計15校、244名。

☆ 低学年塾

- ・北2地区の3会場に加えて、東地区の3か所目のキッズクラブ支援がはじまった。
- ・藤沢地区で、低学年向けの科学塾開催の運びとなった。

☆ イベントへの参加

- ・今年度は、28のイベントに参加した。主なものは以下の通りです。
横浜市の市民活動アピールDAYSワークショップ：2日間で1190名かんたん工作取り組み。
県立青少年センター「青少年のための科学の祭典神奈川大会」：「くるくるリング」510名。
新川崎創造の森「科学で楽しむ一日」：かんたん工作4アイテムで328名の来場者。

☆ 川崎地区の新展開

- ・川崎市でのたんけん工房活動の基礎作りが進んでいる。
- ・川崎市民公益活動助成金申請。年に4回以上の体験塾を中原区、宮前区で計画
- ・川崎市立産業振興財団とのコラボにより、体験塾が開催できるようになった。
- ・太陽誘電（株）とのコラボにより、太陽誘電から会場を借りて体験塾を開催。

財政状況

詳細数字は第2号議案にて説明します

☆ 経常収益

賛助会員への声掛け、寄付募集など、会員の努力により収入は大幅に増加した。

経常収益総額は、約827万円でした。（内訳は、以下の通りです）

- ・受取会費：約179万円（＋17万円：主に、賛助会員増による）
- ・受取寄附金：約166万円（＋69万円：大幅に増加）
- ・事業収益：約436万円（＋50万円）

体験塾への小3親子ペア、参観者の参加など、各地区での積極的な取り組みによります。

- ・東京応化科学技術振興財団より、45万円の助成を受けました。

☆ 経常費用

他方、諸経費も増加しましたが、工房活動の活性化の証と捉えることができます。

経常費用総額は、約795万円でした。

- ・事業費計：約564万円（＋40万円）
- ・管理費計：約231万円（－18万円）

☆ 経常増減額

約32万円の黒字（計画：＋27万円）でした。

- ・ただし、事業収支差額は－128万円。これを、会費・寄附金・助成金で充当しています。

会員関係（会員確保と工具の使い方研修）

☆ 会員確保

2025年3月31日現在の会員数は252名。

しかし、他体の都合や高齢化などでの退会者が多く、常に会員の確保が必要です。

- 「理科推進スタッフ体験講座」を、横浜で2回、藤沢で1回実施しました。
- 横浜での開催は、市内への科学ボランティア人材の養成を目的としています。
- 横浜での開催は、公財）ヨコハマユースとの共催でした。
- 講座実施による入会実績は、以下と通りです。
 - 横浜地区は、前期受講で14名、後期で11名が入会。
 - 藤沢地区は9名が受講を完了し、5名が入会

☆ 工具の使い方研修

体験塾等での工作の部品作りや、参加児童に個人差なくサポートできるように、「工具の使い方」研修を2009年度から実施しています。

- この研修は入会後も会員も受講できるようにしています。

運営管理状況

☆ 組織運営

代表理事が交代して2年経ちました。

- それに伴い本部業務を総務・会計・会員管理の3グループでの分担制にしました。
- 今年度で引継ぎもほぼ完了し、定着したと考えています。

☆ 組織と組織運営の検討

2020年にスタートした刷新プロジェクトは、一定の方向性が見えたので解散した。

- 低学年塾は、キッズ支援という形で実現できた。
- 高学年プロジェクトは、実現に向けてスタディーを継続している。
- ビジョン見直しは、数名のメンバーで模索を続けている。

☆ 普及啓発誌「たんけん通信」の発行

- 2023年4月の83号から新編集方針で紙面を刷新し、今年度も4回発行した。
- 各イベントでの配布や体験塾に参加した保護者への配布も行った。
- アンケートを行い67名から回答をえた。概ね新編集方針への好意的評価であった。

☆ 全体交流会

4月14日（日）に、藤沢市民会館で開催。出展数が50点を超えました。

会員94名、一般11名が参加しました。